



新潟市の人権教育、同和教育について

新潟市では、第4期新潟市教育ビジョンの基本施策として、同和教育を中核とした人権教育を進めています。同和教育では「差別の現実学び、差別されている立場になって寄り添う」という考えに基づいた実践を行うことが重要です。この考え方は、様々な人権課題を解決する共通理念といえます。

この考え方のもと、今年度も各学校園で人権教育、同和教育に取り組んでいただきました。今後のさらなる推進のため、同和教育の副読本「生きる」シリーズを活用した好事例を紹介いたします。

全校一斉道徳授業公開（保護者参観）の実施

～巻南小学校の実践～

【校長から全職員に働きかけたこと】



- 1 最新の人権教育・同和教育の研修を継続して行うことで、人権感覚を磨く。
- 2 授業を通して「自分事」として、諸問題をかかえている子どもたちに接する。
- 3 保護者・地域に対しても啓発していく。



【同和教育を中核とした人権教育の更なる推進を目指して】

- 1 指導計画を見直し、全校一斉道徳授業公開日に「生きる」を題材とした授業を年間予定に位置付ける。
- 2 毎年度始めに中学校区 3 校で、教職員を対象にし、講師を招聘した同和教育研修を行い研鑽する。
- 3 学校運営協議会の場で、全校一斉で「生きる」を題材にした授業を参観日に実施することを伝える。
- 4 夏休み中に、4時間の「生きる」に関する一斉教材研究日を設定した。学年で分担して、指導案や資料（配付プリント・掲示物）の作成を行う。

【授業参観日の様子】



この授業（渋染一揆～差別に立ち向かった人々～）を受けて、少なくとも私は、絶対に差別をしたくないです。差別している人が1人でもいると差別されている人が0人にならないからです。

『人権』を扱う授業は大切です。みんなすごく真剣に参加していましたね。来年も参観日に全校一斉道徳授業公開をしてほしいです。



よりよい外国語教育を通じて 子どもの確かな資質・能力を育てる

～「言語活動を通じた指導」を柱とした授業づくり～

令和5年度は「言語活動を通じた指導」を新潟市外国語教育の柱とし、情報提供や実践共有を通して、「理解してから使う」から「使いながら理解を深める」授業のあり方や、校種間連携の必要性について共通理解を図りました。また、中学校の外国語においては、全国学力状況実態調査の結果を踏まえた授業改善について解説動画を作成し公開しました。

～令和5年度に行った研修～

■外国語学習指導要領評価対応研修（7月）

- ・「授業改善の4つの視点」（総合教育センター 佐藤指導主事）
- ・デジタル教科書活用実践発表（白新中学校 松川先生・橋本先生、鳥屋野中学校 本図先生）

平成5年度外国語学習指導要領評価対応研修

現場職員と共有して改善に向かうための
4つの視点

- ① 授業を「実際のコミュニケーションの場」にできていますか。
- ② 「言語活動」を実践できていますか。
- ③ ALTは単語を読むだけでなく、ICTが代替できる役割を担わせていませんか。
- ④ ICTを効果的に活用できていますか。



デジタル教科書 実践例 家庭での音読練習



<事後アンケートより>

- ・自己の授業改善の刺激となった。ICTの活用や言語活動の実践に前向きに取り組んでいきたい。
- ・今までは、ただ音読して提出させるだけでしたが、本文をつけ、学習の軌跡をみとることができることに気づきませんでした。また継続して行うことの大切さを改めて感じました。

■外国語専科加配教員情報交換会（4月・7月・1月）

- ・公開授業のグループ報告
- ・情報交換

<事後アンケートより>

- ・学びへの道筋立てが先生方によって工夫されていて、子どもが自身の成長を実感したり、ターゲットになる表現を身につけたりすることがしやすい環境が作られていると感じました。
- ・単元の目標やテーマを設定するのが自分の授業では曖昧になっていたと感じた。いかにして子どもたちに目標やテーマを提示し、或いは設定させ、自己調整力を育てていくか、今後の課題にしたい。

■外国語教育マネジメント研修（12月）

- ・実践発表「授業で大切にしていること」（真砂小学校 堀口先生、万代高等学校 高田先生）

<事後アンケートより「校種間連携をする上で、どのようなことができそうですか？」>

・教科書を見合う交流ができそうです。中学校へつなげるために、読む、書くを意識して授業をしていきたいです。

・6年生「My future, my dream」の導入で、中学校1年生からの学校生活紹介動画（英語）を見せるということができそうですと思いました。また、

小学校での既習を生かせるための...
新出事項の導入・練習
言語活動
小学校での既習を生かせるための...
復習
言語活動

令和5年度 外国語教育マネジメント研修
Goal
中高6年間で大切にしたい姿勢
■教科書（知識技能・題材）を理解する
■そこからどう考えるか・どう伝え合うか
■「教科書の向こう側」を見る目
■社会について学ぶ
↑それがたまたま英語というだけのこと

ロイロの資料箱などに活動資料を入れて、どのような指導をしているのか共有し合うということもできたらいいなと思いました。

■令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて —英語科指導改善に係る解説動画—

全国学力・学習状況調査 質問紙の回答から、9割近くの生徒は「英語は大切で、自分の将来にも役立つ」と思っていることがわかりました。また、先生方も、授業ではほぼ全ての領域でバランスよく活動を行っていたことがわかりました。しかし、半分近くの生徒が、英語の勉強に対して「好き」とは思えず、また、3分の1強の生徒が、「授業内容に対してよくわからない」と感じていることもわかりました。

そこで、授業改善の視点の一つに「主体性」を挙げました。生徒が興味関心をもって授業に臨み、自分の学びをコントロールしながら主体的に学習を進めることで、学習内容のより確実な定着が期待できると考えられます。今後、具体を示したり実践を共有したりしながら進めていきます。

伝えたい!聞きたい!と、生徒の気持ちをかき立てる目的・場面・状況の設定

生徒が
1) コミュニケーションを行う目的・場面・状況に合わせて、言語活動に取り組む

生徒が
2) 複数の表現に触れながら、比較や分類を通して、表現の違いを理解し、適切な表現を選ぶ

生徒が
3) できれば教科書の「理解してから使う」から「使いながら理解を深める」方向へ授業をシフトチェンジ

生徒が
4) 学んだことを、他の

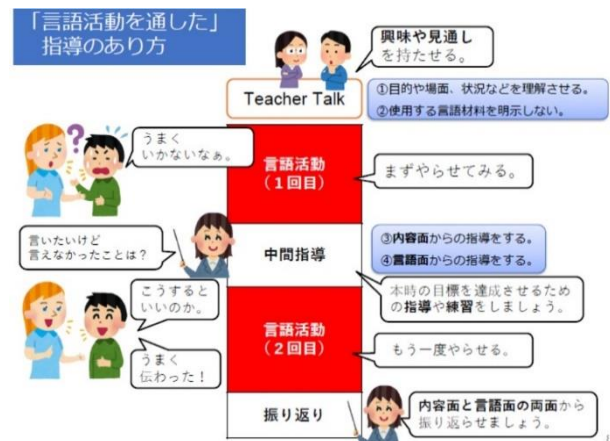


～「言語活動を通した指導」について～

令和4年度英語教育実施状況調査によると、中学校、高等学校において、「生徒の英語力」と「生徒の英語による言語活動が50%以上」との間には有意な相関関係があると示されています。

では、実際の授業ではどのように進めていけばよいのでしょうか。「言語活動を通した指導」が行われる授業について、右のような例が挙げられています。単元のどこで行うかを検討し、実践していきましょう。

これらの方針や目指す子どもの姿を踏まえて、新潟市では「言語活動を通した指導」のあり方を次のように考えています。



教師が単元の中で**言語活動をいくつも意図的に仕組み**、子どもが単元のゴールに向かって取り組む際に、よりよく解決するための**自分の課題に気付かせ**、友達等と関わりながらその**解決方法を見つけさせ**、**今後に生かすことができるようにすること**

最後に

子どもの学びや学び方を時間に沿って見た時に、小学校、中学校、高等学校の各段階で習得すべき内容があります。「言語活動を通した指導」をベースにした授業実践を通して身につけさせましょう。

最初はなかなかうまくいかなくても、子どもが授業を通して「おもしろそう」「やってみようかな」「やってみたらできた」「次もやってみたい、次はこうしてみよう」という思いや学習を積み重ねることで、「自立した学習者」(self-regulated learners)になっていくと考えます。

子どもは変わります。全ての子どもは自分のために「よりよくなりたい、成長したい」と思っています。その思いに私たちも英語の授業を通して応えていきましょう。

私たちも まず やっていきましょう
やりながら 交流しながら 一緒に実践を深めていきましょう
 ～「**子どもの学び**」を中心に据えた授業をみんなで進める～